大正ロマンを代表する画家・竹久夢二

ー夢二郷土美術館ー

竹久夢二は、「大正ロマン」の立役者で、画家、詩人、デザイナーとして活躍したマルチアーティストの先駆者である。

竹久夢二（本名:竹久茂次郎）は1884（明治17）年、岡山県邑久（おく）郡本庄村（現:岡山県瀬戸内市邑久町本庄）で代々酒造業を営む父・竹久菊蔵の二男として生まれた。1900年、父が家業の造り酒屋をたたみ、八幡製鉄所に勤めたので転居した。1902年に早稲田実業に入学、学生時代からスケッチを新聞社などに投稿した。1905年、平凡社発行の「直言」にコマ絵が掲載される。また「中学世界」に“筒井筒”が第一賞入選。このとき初めて夢二と名乗った。

夢二郷土美術館

その後、「大正の浮世絵師」としての夢二式美人画、児童雑誌や詩文の挿絵、歌謡・童話などを創作、さらに1923年関東大震災後の東京を歩きスケッチ21枚を「都新聞」に「東京災難画信」として寄稿連載した。このように終世、野にあって新しい美術などを展開し脚光を浴びた。1934（昭和9）年、49才で結核を患い長野県富士見高原療養所で亡くなった。

また、恋愛遍歴についても多くの評伝が残されているが、ここでは1913（大正12）年に発表された「宵待草」にまつわる歌碑を紹介する。

所　在　地：〒703-8256岡山市中区浜2-1-32
開館時間：午前10時～午後4時（入場無料）
休　館　日：月曜日（祝日の場合は翌日）年末年始
アクセス：バス・ＪＲ岡山駅1番乗り場より後楽園方面行「逢来橋・夢二郷土美術館前」下車すぐ。
路面電車・ＪＲ岡山駅より東山行「城下」下車徒歩約15分
電　話：086－271－1000

■「宵待草」の歌碑

「まてど暮らせど来ぬひとを　宵待草のやるせなさ　こよひは月も出ぬさうな」、の歌い出しで知られる「宵待草」は、竹久夢二作詞の歌曲で、1917（大正6）年、宵待草に宮内省雅楽部のバイオリニスト・多（おおの）　忠亮（ただすけ）が曲を付け全国的なヒット曲となった。

この有名な歌曲「宵待草」の歌碑は、全国4カ所に立てられている。

①岡山市夢二郷土博物館・後楽園前の旭川畔
②千葉県銚子市の海鹿島（あしかじま）
③会津若松市東山温泉
①東京都中央区八重洲、元「港屋絵草紙店」跡

岡山市・後楽園前の旭川畔にある「宵待草」歌碑

夢二郷土美術館の館内中庭に咲いている宵待草は、オオマツヨイグサの異称で、花言葉は、「打ち明けられない恋」、「美人」、「うつろいな愛」などで、この由来は竹久夢二が作詞した歌曲「宵待草」と言われている。

（寺沢安正）

←夢二郷土美術館の館内に咲く「宵待草」